



つたえるかって、なんだろう？ ～ネットでのやりとりを考える～

➤ こんなとき、あなたならどうする？

SNSで友だちが誤った情報を投稿していました。
あなたはコメント欄に何か書いて友だちに伝えますか？
それとも何も言わないでおきますか？



例1 「それ、まちがってるよ」

例2 「ちょっと気になったんだけど、これって本当？」

同じことを伝えようとしても、つかう言葉によって相手の受け取り方は大きく変わります。
もし、自分が例1や例2のような言葉を言われたらどんな気持ちになるか、想像してみましょう。

➤ 伝えるときに大切な3つのポイント

インターネットの中では文字だけで気持ちを伝えなくてはいけないときがあります。
あなたが思っていることを正しく伝えるために、3つのポイントに気を付けてみてください。

① 言葉の選び方

相手にちゃんと伝わる言葉か、きつい言い方になっていないかを投稿する前に見直してみましょう。

例えば「それ、まちがってるよ」は「〇〇という考え方もあるよ」と言い換えることもできます。

② 相手の立場に立つこと

相手に言葉を伝える前に言葉を受け取る相手の気持ちを想像してみましょう。

また、自分が言われたらどう感じるかを考えてみるのも効果的です。

③ 伝える目的を考える

何を伝えようとしているのかをよく考えてから伝えましょう。

よりよくするための言葉が責める言葉になってしまいませんか？

インターネットでも現実でも、言葉は人と人をつなぐ大切な手段です。

何をどう伝えるかで、相手を励ますこともできれば、傷つけてしまうこともあります。

だからこそ、自分の言葉に責任をもって大切に使いましょう。

デジタルシティズンシップ教育とは？

「デジタルシティズンシップ」とは、インターネットやデジタル技術を通じて、社会とつながり、責任ある行動をとりながら積極的に参加する力のことです。



情報モラル教育とデジタルシティズンシップ教育

これまでの「情報モラル教育」では、インターネットの危険性やマナーについて学び、トラブルを未然に防ぐための知識やルールの習得が重視されてきました。主に「危険を回避し、安全に使う力」を育てることが目的です。

一方で「デジタルシティズンシップ教育」では、こうした基礎に加えて、インターネットを通じて社会とつながり、責任ある行動をとる力を育てることを目指します。正しく使うだけでなく、より良く活用する視点を持ち、他者との関わりの中で思いやりや協力の姿勢を育みます。子どもたちが安心して主体的にデジタル社会に参加できるようになることが、大きな目標となります。

デジタルシティズンシップで育てたい力

① 情報を見極める力

インターネットには正確な情報だけでなく、誤情報や意図的に操作された情報があります。情報の信頼性を判断し、必要に応じて様々な視点を意識して調べ直す力が求められます。

② 協働する力

インターネット上では、異なる立場の人と意見を交わしながら協力する場面があります。価値観の違いを尊重し、共通の目的に向かって協力する姿勢が大切です。

③ 発信する力

自分の考えや気持ちを適切な方法で発信する力が大切です。インターネット上で何かを発信する際には、言葉の選び方や相手への配慮、発信の影響などを考える力が求められます。

④ 参加意識

インターネット上の出来事を「自分には関係ない」と捉えるのではなく、社会の一員として積極的に関わっていくことが求められます。その際には、ルールやマナーを守り、他者への配慮を忘れずに行動することが大切です。

家庭での指導

家庭でもインターネットの使い方について子どもと話すことが大切です。どんな情報を見ているか、どんな気持ちで発信しているかなど、日常の会話の中で自然に話題にしてみましょう。使い方を一方的に制限するのではなく、子どもが自分で考えて行動できるよう見守ってあげることが大切です。ルールやマナーを守るだけでなく、相手の気持ちを考えたり、社会の一員として関わる意識を持てるように声をかけてください。

